

飢タルモノ銀杏ヲ飽マデ食シテ次日死タリ、總ジテ銀杏ト櫻桃ハ、小兒ニハ禁ジテ少モ與ヘザ  
ルベシ、合食禁、鰻鱈魚ト同食スレバ、軟風病ヲ生ズ、鰻鱈魚ハウナギナリ、

〔和漢三才圖會山果八十七〕銀杏イエイ 白果ホウ 鴨脚子カク 俗云一葉イチエ ○中略

按銀杏處處皆有、出於對州者良、藝州者次之、其葉刻缺深者雄也、不結實、然三稜實爲雄、二稜爲雌、則雄亦結實乎、四月著花于莖頭、其莖細長五七分、其花淡青色如椒粒ザゼウツ、無葩、二顆一雙、朝見樹下、有落花、莖、

〔草木性譜入公孫樹〕

處々に植、雌雄あり、雄木は其葉二三岐をなす、春葉間に黃白色の花簇生す、柔花に彷彿たり、果を結ばず、雌木は其葉岐をなさず、春葉間に花あらずして果を結ぶ、此樹雌雄感通して果銀杏草綱目本を結ぶ、果に亦雌雄あり、雌は兩稜、雄は三稜なり、下種して生じ易きといへども、果を結ばざる者あり、俗說に雌雄同種すれば果を結ぶと云ふ、然るべからず、其性長すれば、近隣の雄木互に相望相感通して果を結ぶ、若近隣に雄木なき時は果を結ばず、是陰陽相感するの理、無情中の奇なる者なり、秘傳花鏡云、實熟時以竹箆縊樹木、但擊箆則果自落と、本草綱目、皂角の條に相似たる說あり、夫動物は天に本づきて頭首上にあり、呼吸氣を以てす、神内に在り、植物は地に本づきて根荄下に有り、升降潤を以てす、氣外に有り、竹箆を以て縊するの說、生理の巡環を止るが故に、果自ら落るなるべし、いまだこれを試みず、

〔重修本草綱目啓蒙山果二十一〕銀杏イチャウ木ノギンナンノ唐音ナリ、ギナン筑前一名 仁杏汝南圃史 白眼共同上 靈眼共同上 玉果潛確書 白杏異名事物 樹一名公孫樹汝南圃史 鴨脚同上 平仲木正字通雅 火橐木通雅 槛同上 杠文選通志 佛指甲通浙江 白果樹袁州府志